

## SGコースって、どんなコース？

### グローバル課題に挑む週2時間の「SG探究」

SGコースは2・3年生普通科の中に1クラスある、普通コースとは別に設定された文理融合コースです（3年でのクラス替えなし）。このコースの目玉は「SG探究」。普通コースとは違って週2時間の課題研究を行います。

課題研究で扱うのは「グローバル課題」です。生徒たちは世界の諸問題に目を向け、その解決をグループメンバーと共に目指します。グローバル課題といっても遠い外国の問題をただ想像するわけではありません。世界的な問題でもあり、かつ日本や石川県を軸足に“自分事”として捉えられる社会課題を、研究テーマとして設定します。そして、インタビュー調査や実地調査などのフィールドワークを実施してデータを取り、より実践的で科学的な解決策の提言を目指していきます。

#### 先輩の声（京大思修館研修を終えて）

院生の知識の深さと広さ、コミュニケーション能力など全ての面に驚かされ、かつ将来このようにグローバル問題を考えたいと切望した。助言をたくさんいただいたので今後の研究がもっと充実しそうで嬉しい。

#### 先輩の声（海外研修・国連職員の講義を聞いて）

自分に足りないものは経験、つまり失敗の量が足りていないなと感じた。世界の諸問題に真正面から対処していく国連で働くことはとても格好良く、憧れだ。今できることは少なくとも、できることから始めていき、積み重ねてグローバルリーダーに少しでも近づきたい。

#### 先輩の声（3年成果発表会を終えて）

2年の最初の頃は英語を話すことにすごく抵抗があり、言葉も全く出さず黙ってしまうことがよくあったが、今ではちゃんと話して伝えようとする事ができるようになった。そうした発表の力だけでなく、自分でアポを取り、調査する力、論文を書く力など、今後の人生で役に立ついろんな力をつけることができ、本当に成長できた。

#### 先輩の声（3年成果発表会を終えて）

英語を喋るのが苦手だった自分が、少し喋れるようになった。発表の時でも聴衆の反応を見ながら発表できるようになった。

### SGコースの先輩たちの感想を紹介！

#### 先輩の声（課題研究を終えて）

正直、世界の問題はどこかの偉い人たちが解決する、などと他人事に思っていました。しかし、この研究を通して、ニュースでみる世界の課題は“私たち”が解決していかなければいけないと思うようになりました。世界を視野に入れた研究、そこから学んだことはとても良い経験で、今後絶対自分のためになると信じています。

#### 先輩の声（課題研究を終えて）

活動を通して世界規模の問題を考えている中で、1人の人間の力では何もできないことが分かった。もちろん1人の人間によって世界に変化をもたらすことはあるけれど、その変化をより良いものにできるかどうかは他の人たちの行動にかかっているのだと感じた。今後は自分も周りの人を支えられる人間になれるよう努力を重ねていきたい。

### SGコースならではの活動 集大成は英語でプレゼン

「SG探究」に連動した特別な活動もたくさんあります。その一つが、「京都大学大学院思修館研修」。高校生にとっては、そもそも「研究って何をどうしたらよいのか分からない」ものです。研究者として実際に活動する京大の大学院生が、研究の流れを明らかにしながら、取るべき手順やアイデア、分析する視点をそれぞれのグループに助言してくれます。

また「アメリカ海外研修」では、グローバルマインドや実践的英語力の育成を図ります。昨年と今年はコロナ禍のため残念ながら実施できませんでしたが、過去の研修では、国連職員からの講義、プリンストン大学で学生との意見交換、プリンストン高校の授業参加、ホームステイ、ブロードウェイで活躍する本校卒業生で俳優の由水みなみさんのワークショップなどがありました。

研究のゴールは2年1月の課題研究発表会と3年7月の成果発表会です。集大成の成果発表会では、外国人を相手に英語でプレゼンします。質疑応答も英語で行われ、実践的な英語力の育成も図ります。「さすがに英語はムリかも」と思う人も、左の「先輩の声」を読んでください。飛び込む勇気があなたを変えるのです。

### SGコースが目指すのは、答えなき問題の解決に挑む「グローバルリーダー」の育成

皆さんもここ数年、AIの発達や環境問題の悪化、パンデミック等、世の中の劇的な変化を肌で感じてきたと思います。これまでの常識が通用しない変化が、今後さらに加速度的に広がっていくと見られ、そのため、答えのない問題に立ち向かうリーダーが求められているのです。実際に、世界では海洋プラスチック問題に挑むポイヤン・スラットさんなど、皆さんと同じ若い世代が“常識”に風穴を開け始めています。

世界を変えたいと願う「高い志」、さらに「知性・教養」「協働力」「共感力」「行動力」「問題解決力」を身に付けた「グローバルリーダー」の育成は本校の使命であり、先頭に立って目指すのがこのコースです。そして、この理想と問題意識に共鳴できる生徒に、ぜひSGコースを選択してもらいたいです。

#### 先輩の声（課題研究を終えて）

私は課題研究を通じて、答えのない問題を追及することの難しさややりがいを感じました。ゴールははっきりしていないので、自分達がやっていることが本当にあっているのか、軸がずれていないかどうかと戸惑ったことが何度もありました。しかし、議論を重ねていく中で“誰のためにどうしたいのか”ということを意識して、自分の研究に自信が持てるようになりました。

# 今後の行事予定（SGH推進室関係） 現在、参加者募集中！

新たな知見を手にし、自分自身の「今」、そして「未来」を見つめる機会を得られるのが、SGH関連の行事です。今回は2つのイベントを紹介します。どちらも泉丘高校でなければ、なかなか参加できない行事です。また、今後同じような行事は予定しておらず、唯一のチャンスでもあります。ぜひ参加して下さい。

## 『探究』し続ける卒業生が語る会

グローバルリーダー養成講座の『探究』し続ける卒業生が語る会は、10月8日（金）放課後に開催します。（場所はiStudioを予定。大学生とは学校の機器を使用しオンラインでつなぎます）

SG探究でグローバル課題に挑んだ6人が、卒業後、大学生としてどのような社会課題に挑んできたのか、それぞれプレゼンテーションします。質問もできます。

「社会を変えたい」と活動する大学生の話聞くチャンスはなかなかありません。皆さんの今後のキャリアを考える上でも参考になる会となるはずですよ。

プレゼンテーションの内容(予定)を一部紹介

堀井瑞樹さん(東京大学・法)

弁護士主催の自主ゼミで、貧困やジェンダー、障害のある人への支援活動をする人と関わってきた経験を語る。

橋元 菜摘さん(東京大学・農)

農学部の「One Earth Guardians 育成プログラム」で学び、考えたこと。

荒井 悠さん(金沢大学・医)

ベトナムでの医療ボランティアに参加し、考えたこと。

## アジアユースリーダーズ(高校生多国間交流プログラム)

先輩の声 (アジアユースリーダーズを終えて)

リスニングが苦手なためにうまく会話に入らず、もどかしく感じるが多々ありました。それでも、毎日コミュニケーションをとっているうちに徐々に慣れてきて、英語が聞こえるようになったと思います。また、前よりも自然に英語で反応したり、質問し返したりすることができるようになりました。(略) 私はグループのリーダーだったタイの女の子から、リーダーとして大切なことをいくつも学びました。それは、常に周りを見て、時には周りの人に意見などを言う機会を与え、そしてみんなに共通理解を示すことです。(略) このプログラムは本当に楽しくて刺激をたくさん受けた一生の宝物となりました。英語が下手な私を受け入れ、大切な思い出をくれたメンバーのみんな、本当にありがとうございました。

イオン1%クラブが主催する「アジアユースリーダーズ(高校生多国間交流プログラム)」の参加者を募集しています。

プログラムは12月20日(月)~22日(水)に行われ、アジア8か国(中国、ベトナム、インドネシア、マレーシア、タイ、カンボジア、ラオス、日本)の高校生と「食品ロス削減の視点で考える食の未来づくり」をテーマにグループでディスカッションし、最後にはプレゼンでアイデアを提言します。

本校生徒は、国内の指定会場(未定)からオンラインで参加する予定です。

英語でのディスカッションですので、ハードルが高く感じるでしょう。過去の参加した先輩たちも、英語が伝わらず悔しい思いをしてきました。しかし、先輩たちはその挫折を乗り越え、ここでしか得られない財産を手にし、何物にも代えられない自信を手にしてしています。ぜひ参加してほしいと思います。

## 8月の行事報告

### プリンストン大生と意見交換

プリンストン・イン・石川(PII)の「オンライン・ランゲージテーブル(交流会)」が8月3日に行われました。

「コロナのパンデミックは高校生にどんな影響を与えたか」をテーマに、1・2年生の希望者24名が、プリンストン大で日本語を学ぶ学生18名と意見交換しました。前半は英語、後半は日本語でのセッションが行われ、生徒はアメリカの現状を質問して、知見を広げていました。

#### 1年生の感想

相手の環境は自分たちがいる環境とは多くのことが異なっていて、コロナ禍の中どんな風に過ごしているのかをリアルに聞くことができたので、驚きと発見ばかりの1時間でした！ほとんどの人がワクチンを打ち終わっていたり、マスクをしていなかったり、日本とは違う視点からこの状況について考えることができました。



オンラインでプリンストン大学の大学生と話しました

#### 1年生の感想

英語で会話するときは、積極的になったほうが良いと思いました。私がうまく英語を話せなくても大学生の方たちが理解してくれたので、すごく嬉しかったし、英語の会話がすごく面白いんだとわかりました。機会があったらまた参加したいです。すごく楽しかったです。

#### 2年生の感想

コロナ禍での生活はどれも似たものなのだと知りました。英語での交流は最初は緊張したけどだんだんと打ち解けられてすごく楽しかったです。日本語はより簡単な日本語で話そうと思うと少し難しいものがありました(笑)日本語セッションの途中で相手を通じない単語を英語を使って言ってきたときに言語の便利さを実感しました。二カ国語話せるだけでこんなにも世界が広がるのか…！と思いました。また多くの学生さんが第三外国語まで勉強されていたので自分もそんなふうになりたいと思いました。